

## 中学生の学習用具携行についての研究 (第1報)

## 通学用鞆に関する実態

○大村知子\* 木岡悦子\*\* 森 由紀\*\* 大森敏江\*\*

(\*静岡大、\*\*甲南女大短大)

【目的】携行品運搬における背負い方式の有用性に関して、若い女性、中・高齢女性と児童について既に報告している。そこで中学生に関する資料を得ることによって、携行品運搬方法による人体への負荷の状況と問題点を各ライフステージを通じて把握することができると考え、調査・実験を行った。

第1報では、中学生が学習用具を携行する通学鞆などの形式や運搬重量と携行品の実態を明らかにし、通学時の負荷の検討など、生徒の生活環境向上に寄与する基礎資料を得ることを目的に考察する。

【方法】調査は1998年11月～1999年1月の通常時間割時で学習用具の携行が最多の曜日に実施した。調査対象は、静岡と兵庫両県内の18校に在籍する男女中学生246名である。調査方法はアンケート形式の質問紙調査法によった。調査内容は使用中の鞆の形式・総重量・材質、携行品の内訳、サブバックの有無、通学方法と所要時間や身長・体重などの基本属性の計20項目である。

【結果】通学用鞆の形式は、指定のない中学校では両地域とも背負い式が過半数を占め、次いで多かった形式は、静岡県では背負いと手提げの兼用式、兵庫県では肩掛け式であった。鞆の材質は、コーティングしてある布製が最も多く、鞆の重さの平均は681gであり、その範囲は100g～3000gで差が大きく、鞆と学習用具の総重量の平均は3970g、最小値は500g、最大値は9500gで学校差も個人差も著しかった。「制服ともマッチする鞆」、「雨の日でも中味が型くずれしない形と材質」等の自由記述から中学生は、通学鞆を服装の一部として考え、通学環境にも適するものを求めていることが示唆された。